

自然再生地における 外来種対策について

令和5年3月10日

国土交通省 霞ヶ浦河川事務所

1. 霞ヶ浦自然再生箇所の保全・再生目標と整備効果

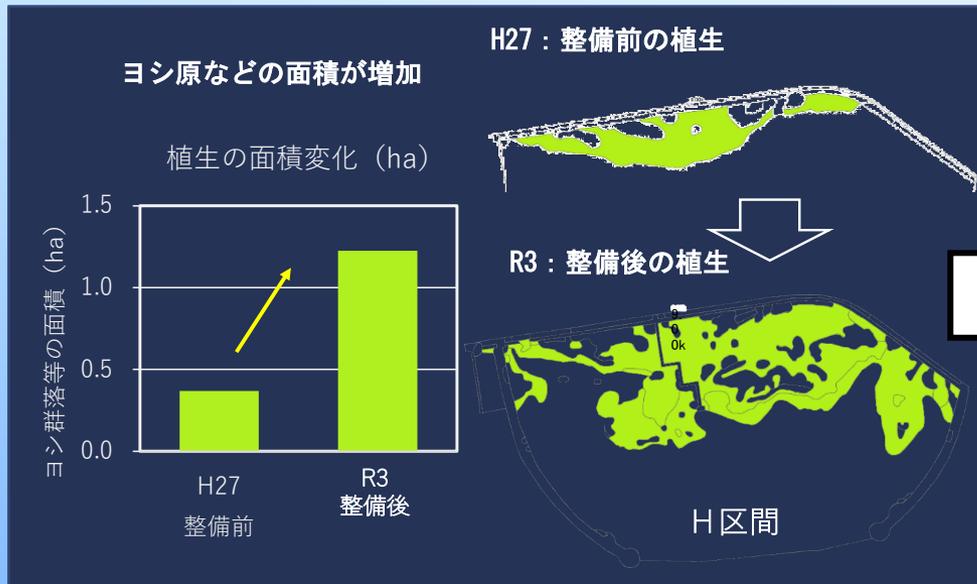
(1) 再生目標

霞ヶ浦田村・沖宿・戸崎地区自然再生箇所は、「地域の特色と変遷を踏まえ、多様な生物の生育・生息する水辺を保全・再生する」ことを湖岸環境の保全・再生目標としています。

(2) 整備効果 (植物)

①ヨシをはじめとする湖岸植生帯が形成され、自然の力も作用し変化に富む水辺が形成されました。

②タコノアシ・ヤナギトラノオなどの希少な湿生植物の生育場となりました。



タコノアシ



ヤナギトラノオ



サジオモダカ



ガンエンガヤツリ

2. 自然再生箇所では顕在化しつつある新たな問題

(1) 新たな問題

自然再生箇所では、ミズヒマワリ、オオフサモ、ナガエツルノゲイトウ、オオバナミズキンバイなどの抽水や水草の特定外来生物が侵入、定着、拡大しており、希少な湿生植物など在来植物への影響という新たな問題が顕在化しつつあります。



ミズヒマワリ



オオフサモ



ナガエツルノゲイトウ



オオバナミズキンバイ

(2) 特定外来生物の除去活動を実施

そのため、自然再生協議会メンバーとの協働で特定外来生物の除去活動を行ってきましたが、人力による除去だけでは対処しきれないのが実状です。



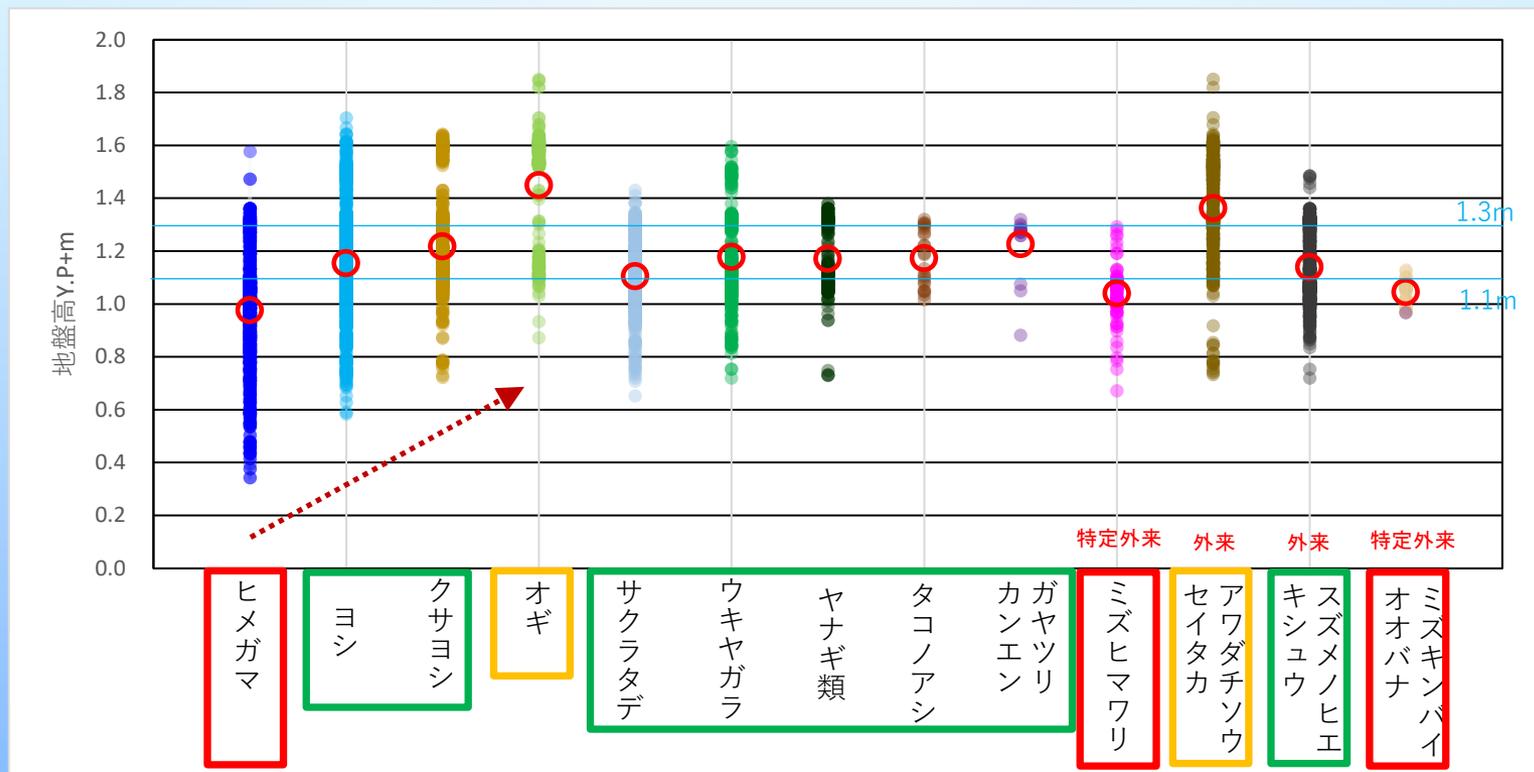
3. 在来植物の保全・再生における課題と対策の方向性

(1) 在来植物の保全・再生における課題

田村・沖宿・戸崎地区の自然再生箇所においては、在来植物保全の観点から、いかにして特定外来生物の侵入・定着・拡大を抑制するかが新たな課題であり、具体の対策と効果検証が必要です。

(2) 対策の方向性

① 霞ヶ浦の水位管理による冠水条件に応じた種毎の生育適地の把握



自然再生地における主な植物の生育地盤高解析イメージ (R2~R4)

3. 在来植物の保全・再生における課題と対策の方向性

(2) 対策の方向性

② 植生帯の奥への侵入・定着・拡大抑制のための 試験施工の実施

- ◆ **対象**：H区間 ※植生帯の奥まで特定外来生物が侵入している区間
- ◆ **ねらい**：ヨシ等の在来植物が生育し、かつ特定外来生物が侵入し難い地盤高や施工方法に関する知見を蓄積し今後の施工に反映する。

◆ 試験施工（案）

A案：堤防前面のコンクリートの平場から水際までを緩傾斜で摺りつける

B案：水位上昇時に水没しない高さまで盛土後、窪地や孤立した池を掘る

C案：突堤脇のワンドの水際を締め切り、孤立した池にする

- 
- ◆ H区間で得た知見や成果は、他地区での今後の対策や施工に反映

3. 在来植物の保全・再生における課題と対策の方向性

(2) 対策の方向性

② 植生帯の奥への侵入・定着・拡大抑制のための試験施工の実施

◆ 配置計画 (案)



H区間における試験施工の配置計画 (案)

4. ご協力のお願い

- ◆ 在来植物の保全を目的とした特定外来生物抑制の試験施工を行うため、国土交通省の自然再生事業をR8年度まで延長する方向で調整を進めています。

※R5：試験施工、R6～R8：モニタリングで効果や課題を検証

- ◆ 自然再生箇所の維持管理には、皆さまの協力が不可欠です。本件は、計画段階から皆さまにご助言をいただき、設計や施工に極力反映できるよう進めたいと考えています。
- ◆ 試験施工のねらい、施工範囲、配置、施工方法などにつきまして、この場を借りて意見交換をお願いします。